

令和6年度国際理解ワークショップ 進行シート

様式4

令和6年8月1日作成

大学名： 上越教育大学

タイトル： ちょっと気持ちのよい私たちの学校

1. 本ワークショップに関連するSDGsの目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
					
					
<input type="radio"/>					
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
					

2 : 本ワークショップの要旨

身の回りにある「当たり前」を他の人にとっても当たり前のことなのかを疑い、もっと多くの人にとって気持ちのよい生活環境につながるように、少しの工夫でできることを見つける。また、環境面だけでなく情動的な面についても考える。

3 : 本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

現代の日本の抱える多様性への課題に対して、児童生徒が自ら自分にできることとは何かを考え、学校生活をより多くの人にとって気持ちのよいものにするための提言を行うことができるようにする。また、ワークショップ後も考え続けることができる。

4 : 本トピックをとりあげる理由

自分たちにとっての当たり前は他の人にとって当たり前とは限らないことに気づき、多様性を重んじた社会の構成員としてできることを自分ごとに引きつけて考え、行動できるようになることを願うから。

5 : 活動過程

(使用時間 : 授業 2 時間分 参加人数 : 16)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反 応、その他注意 事項
導入 : 起 (20分) 気持ちがい ってなん だろう	ito ①アイスブレ イク用の雰 囲気作りのお 題 ②「着心地の よい服装」 今回はみんな の学校の制服 について考え てみよう。	クラスでそれぞ れに ito を渡 し、「居心地の よい空間」と 「着心地の良い 服装」を思い浮 かべ、自分の数 字に該当する空 間を説明できる ようにする。他 の人も含めて説 明を聞きなが ら、実際に持っ ているカードの 数字の小さい順 に並べる。最後 に自分の番号を 発表して実際に どうだったのか を共有。	・アイスブ レイク ・多くの 人にとって気 持ちの良 い生活環 境につな がるよう な工夫に ついて考 えること ができる。	ito	数字を言わないよ う注意喚起 ディベートに向け て話しやすい雰 囲気の醸成

<p>展開：承 (35分) 【高校】 ディベート</p>	<p>「高校に制服は必要である」を議題に肯定派と否定派に分かれディベートを行う。</p>	<p>16人を4人1チームで4チームに分ける 欠席者がいれば3人で1チームもあり ファシリテーターから議論を提示し、肯定派・否定派を指定する。 チームでの役割を決める。主張を言う人(1人目)相手の主張を聞いて反論する人(2人目)、相手の反論を聞き主張の立て直しを行う人(3人目) 4人チームは2人目を2人で行う。 ディベートの流れと注意事項を確認しワークシートを配布する。</p> <p>10分準備してからディベートの開始</p> <p>肯定側主張 否定側主張 準備2分 肯定側反論 否定側反論 準備2分 肯定側立て直し 否定側立て直し</p>	<p>ディベートを行うことで、意見の異なる相手とどのように対話を重ね、自分の意見を伝え、相手の意図を汲み取りよりよい解決策を導き出すのかという過程を体験する</p>	<p>ワークシート</p>	<p>お互いの主張が通じていないなど、ディベートを行うのに困難が生じた場合は、それぞれのディベートの司会進行かつタイムキーパーのファシリテーターが、要約したり意図を確認しながら、ディベートが進むように支援する。</p>
--	--	--	--	---------------	---

<p>発展：転 (35分) ディベートの 振り返りとさ らなる追質問</p>	<p>ディベートを行 なってみての 振り返り</p> <p>さらに今後の 制服のあり方 についてこれ まで考えた視 点をもとにど のような解決 策があるかグ ループで考え 意見をまとめ る</p> <p>意見を全体で 共有</p>	<p>ディベートを行 なって、相手の 言っていること で新しい観点や 感じたことなど を言語化させ、 共有する</p> <p>今の制服の考え 方の流れと課題 を確認</p> <p>さらに今後の制 服のあり方につ いて考えを深め る活動を通じ て、自分たちの グループでの解 決策を考え発表 する</p> <p>他のグループの 意見を聞き、さ らに考えを深め る</p>	<p>当然のよう に考えていた ことを、別の 視点から見直 し、また社会の 変化からどの ような視点が 今後に必要な のか考える。 漫然と今ある ことを続ける だけでなく、時 代の流れや変 化するにニーズ に対応してその 場の人間に よりよいあり 方を見直したり 、疑問に感じ たりすること を経験する</p>	<p>スライド</p>	<p>話し合いが停止 しているグループ があれば随時サ ポートに入る</p> <p>時計をみながら タイムコントロール</p>
<p>まとめ：結 (10分)</p>	<p>ワークショッ プ全体の振り 返りとワーク シートの回収</p>	<p>ディベートをす ることで、意見 の異なる相手と の対話の仕方、 一つの議題を複 数の視点から考 えることなどを 体験し、今後に も生かしてほし いことを伝える 。また、自分の 見方が必ずしも 皆にとっての 当たり前ではな いことを自覚し 、さまざまな 立場の人を慮る ことを意識して ほしいことを伝 える、またファ シリテーターか ら今日の振り返</p>	<p>今日みんな で考えた解決 策はあくまで 暫定なので、 これからもず っと考え続け て、ほしいこ とを伝える。そ の時集まった メンバーにと って居心地の よい空間を みんな で知恵を合 わせてつく るとい う気持 ちを持 ち続け たいこ とを 伝える。 変</p>		

		り、感想、感謝を伝える。	化の激しい時代に、今までと同じことを続けるのではなく、よりよい社会を作るという意識の醸成。		
--	--	--------------	---	--	--

6 : 会場のセッティング（対面の場合のみ）

7 : 使用する教材

・ ito カード ワークシート スライド

8 : 参考にした資料

9 : その他